

H24 シカ年度 ルサー相泊地区におけるエゾシカ捕獲結果

羅臼町ルサ川左岸～相泊の約 8 km×500 m の範囲内において、2つの捕獲手法の組み合わせで、計 78 頭（オス成獣 28 頭、メス成獣 42 頭、0 歳 8 頭）を捕獲した。

<実施結果>

1) ルサ川左岸の囲いわな

2013 年 1 月 18 日～3 月 27 日の 68 日間に自動落下式ゲートを用いて、17 頭（うちメス成獣 8 頭；47.1 %）のシカを捕獲した。

2) 北浜～相泊の流し猟式 SS

2012 年 12 月 21 日～2013 年 4 月 21 日の 122 日間（※餌づけ期間）に流し猟式 SS を計 6 回実施し、61 頭（うちメス成獣 34 頭；55.7 %）を捕獲した。

※2 月 8 日～3 月 12 日、3 月 19～31 日は北浜仮設ゲート（7 km ポスト地点）以北の道道が雪崩の危険等により閉鎖されたため、餌づけ・捕獲ともにまったく実施できず。

表 1-2-1. H24 シカ年度 ルサー相泊地区における手法別捕獲実施状況

	12月	1月	2月	3月	4月
囲いわな ルサ	12/19～28 縮小工事	1/9～餌づけ誘引	1/18～ わな稼働期間	～3/27	
流し猟式SS 北浜～相泊	12/21～餌づけ誘引	1月3回	2月1回	3/13～16餌づけ再開	4月2回

※流し猟式 SS の灰色部分は、餌付けのみ実施した期間を示している。

表 1-2-2. H24 シカ年度 ルサー相泊地区における手法別シカ捕獲状況

捕獲手法	場所	オス 成獣	メス 成獣	0歳	計
囲いわな	ルサ川左岸	6	8	3	17
流し猟式シャープ シューティング	北浜～相泊	22	34	5	61
合計		28	42	8	78

<捕獲効率>

- ・ 1日あたりの最大捕獲頭数は、囲いわな 5頭、流し猟式 SS 20頭。ピークは前者が2月2日、後者が4月21日であった(図1-2-1)。
- ・ 投下労働力あたりの捕獲頭数は、囲いわな 0.3頭/人日、流し猟式 SS が 2.2頭/人日。
- ・ 流し猟式 SS の射手待機1時間あたりの捕獲頭数は、全体で 4.1頭/時間。実施日により、2.2~7.7頭/時間のばらつきあり。

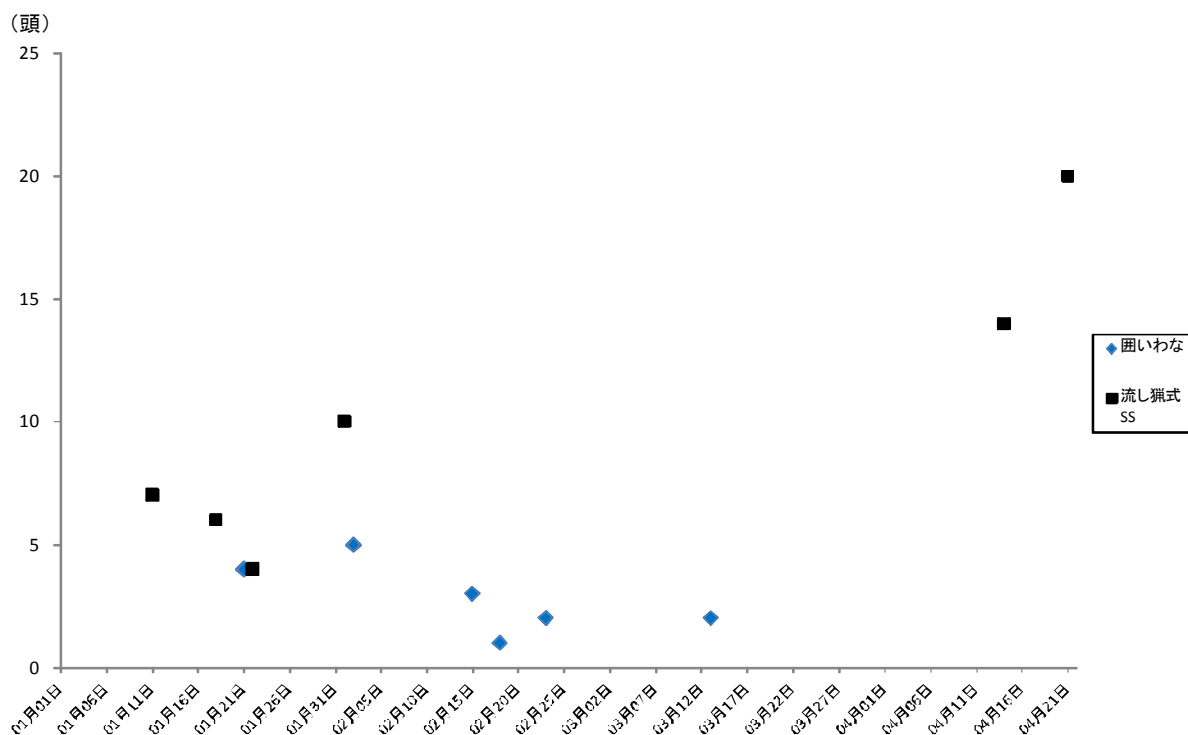


図1-2-1. ルサー相泊地区におけるH24シカ年度(2013年1-4月)の手法別・日別エゾシカ捕獲結果

表1-2-3. ルサー相泊地区における捕獲効率のシカ年度間比較

シカ年度	ルサ囲いわな		ルサー相泊SS		捕獲方式
	搬出頭数*	捕獲効率a	捕獲頭数	捕獲効率b	
H21			23	0.7	待ち伏せ式
H22	100	1.0	24	0.4	待ち伏せ式
H23	91	1.4	53	3.1	流し猟式
H24	17	0.3	61	4.1	流し猟式
合計	208		161		

* 搬出頭数: 脱走個体や意図的に再放逐した個体を除く、生態系から除去した頭数

・ 捕獲効率a: 1わな日(囲いわなの有効稼働日)あたりのシカ搬出頭数(頭/日)

・ 捕獲効率b: 射手待機1時間あたりのシカ捕獲頭数(頭/時間)

<ルサー相泊地区考察>

1) 囲いわな

- ・過去2年間に同所で計191頭を捕獲し、誘引可能なシカの大部分を既に捕獲した可能性や、多雪による標高の高い場所への移動、頻繁な吹雪による誘引効果の低下が理由として考えられる。
- ・わなに馴れた個体（意図的に再放逐している標識個体：耳標番号17）が、H24シカ年度も活躍した。しかしそれにもかかわらず、捕獲頭数は伸びなかった。
- ・H22～23シカ年度のような高い捕獲効率は期待できないが、流し猟式SSでは捕獲しにくい位置にいる集団を捕獲するためには、ルサ川左岸の囲いわなは今後も必要か。

2) 流し猟式SS

- ・同一射手が従事した場合でも、岩尾別地区SSと比較してルサー相泊SSでは狙撃成績が悪化する傾向が認められた。
- ・昆布浜南部の餌場に出現する群れは、最後まで警戒心が高いままであった。H23シカ年度の巻き狩りを経験した個体であった可能性あり。
- ・相泊寄りの複数の餌場では馴化が順調に進み、餌まき合図のラッパ音だけで段丘上から姿を現すようになった。
- ・4月の流し猟式SS実施は、冬期以上に地元住民の理解が重要であり、細かな配慮や調整が必要。
- ・当初、相泊以北の海岸も実施予定であったが、海岸の侵食や除雪困難などの理由により、車両の進入が事実上不可能であった。またアイドマリ川左岸以北はメス成獣主体で群れサイズも非常に大きく、SSには不適。同個体群に対して囲いわなでの捕獲を検討したい。